

表現者

2025. 1. 14

12月に、幼稚園の発表会があった。ご家族の方がたくさん来てくださった。この機会を生かして、希望する方に『人生は、燦燦と 校長室だより100選』をお渡しした。ついでというわけではないのだが、『表現者を育てる授業 ー中学校国語実践記録ー』も興味のある方にお渡しした。国語教員を目指す高校生やお父さんお母さん、おじいさんやおばあさんも手にとってくれた。

前者は、気軽に読めるエッセーである。小学5年生も読んでくれた。この小学生は、いつも「園長通信」を読んでくれている。読めない漢字もあることだろう。親御さんの話だと、前後の内容からニュアンスはわかっているとのことだった。そうなのである。漢字は読めなくても、おおよその意味はわかることが多い。

後者のほうは、本の帯に、「若い国語教師のための『総合型国語科教育』指導書の決定版！」とある。AIによる解説だと、“こんな内容です”については、「本書は国語教師向けの教育指導書であり、生徒の論理的思考力とコミュニケーション能力を向上させるための指導方法を提案している。スピーチ、ディベート等を通じて、グローバル社会で活躍できる『表現する力』を身につけさせるための指導法が紹介されている。」とある。“こんな方におすすめです”では、「主体的な授業を実践したい国語教師や表現力の向上に関心がある教育関係者におすすめの書籍です。」となっている。“感想を短いワードで言うと”には、「教育に対するインスピレーションを受けると共に、具体的な教育手法に対する理解と実用的な知識が増す感覚。」とある。そして、“この本を読んだ方の反応をまとめてみます”では、「教育実践者や志を持つ国語教師に圧倒的な支持を受け、授業力向上と生徒の表現力養成に重宝されている。具体的で現実的な指導方法が評価される一方で、実践には学校や教師の柔軟な対応が必要であるという声もある。」となっている。

したがって、幼稚園の保護者に読んでもらうことには、多少の躊躇があった。ところが、こんな話を伺った。お父さん（旦那さん）が、この本を読み、ディベートの影響を受けたのか、今までは口数が少なく、自分の意見を言えなかったのが、職場で自分の意見を言い、相手を論破したそうである。この話を聞いて、心からうれしくなった。この本が人の役に立った。この話をしてくれたお母さん（奥さん）に、「旦那さんは日頃から自分の意見を言いたい、言えるようになりたいと思っていたところに、タイミングよく、私の本が登場したのでしょうか」と話した。

そのお母さんは、私が縁のことを書いているのをわかっていて、縁の話をしてくれた。きっと、旦那さんは、「表現者を育てる」というフレーズに興味をもってくれたのかもしれない。このご夫妻と私をつないでくれたのは、かわいい園児である息子さんである。この旦那さんは、まぎれもなく“表現者”である。自分の拙い実践を一冊の本という形にしてよかった。そう思えた。